

第9章 家庭科の取り組み

I 昨年度の研究概要

昨年度、家庭科では「生徒の思考力を促す授業の工夫 ―T T指導を活用して―」というテーマで、授業研究を行った。本校は、一昨年度からT T指導を導入した。実際、この活用により、実験・実習やワークシート・レポート作成では大幅な支援の強化ができた。また、グループ討議等における生徒の発言や疑問などに素早く対応したり、教師の発問や生徒との対話を通し、思考を深めたりする場面も数多く設定できた。授業後の検証アンケートでも、思考力を身に付けるためのT T指導の効果を85%以上の生徒が認めており、一昨年度から導入したT T指導の効果が認められる。

しかし、授業に意欲的に取り組んでいるとは言い難い状況がある。実生活においても、家庭基礎で身に付けた知識・技術を活用する場面がまだまだ少ない。課題は、将来にわたる生活に役立つ内容の充実を図り、生徒の思考力・表現力を身に付けさせるとともに授業に対する興味・関心を高めていくことである。

II 今年度の研究サブテーマ

昨年度は思考力に焦点を当てて授業研究を行い、一定の成果を挙げることができた。しかし、まだまだ授業に意欲的に取り組んでいるとは言い難い状況がある。生徒の多くは授業に対する姿勢が受身である。例えば課題を与えたとき最低限度の取り組みで済ませようとする傾向が見られる。また、どういった内容を答えればいいのか、どういった内容を記述すればよいのかという答えにたどり着こうとヒントを他者に求めようとする生徒も多い。その結果、自分が考え導いた解答に自信がなく、また、何をどう表現することが求められているのかも理解できていない。

以上のことから、今年度の研究のサブテーマを「自分の考えを明確に表現する力を高めるための教材作り」とした。ここでいう自分の考えを明確に表現する力とは、資料や情報に基づいて事実等を正確に理解し、意見や主張、感想を明確に記述する力である。そういった力を身に付けさせるために、生徒の深い思考を促すとともに、それを明確に表現する課題を取り入れたワークシートを作成することにした。そして、今年度は、深い思考や表現につながるかどうかその一部を試行しながらワークシートの作成をしていく。

III 開発教材について

研究サブテーマに基づき、生徒の思考力・表現力の向上を図っていくワークシート教材を作成した。構成は、1小単元または1テーマごとにB4プリント1枚とし、左半分は授業記録用のノート、右半分に取り組みを深めるための考える視点やヒント、新情報を取り入れたワークシート、そして振り返りのための授業の自己評価欄を設けた。このようなワークシートを小単元ごとに作成し、授業を行った。次の例は、「親の役割」をテーマとした授業で、実際に生徒が記入したワークシートの一部である。

1年 H 番 氏名

家庭基礎 No 7

《ワーク 10》

今、あなたはどのような人とのかかわりのなかで育っているでしょうか。書き出してみましょう。

父、母、姉、弟、おだち、おば、祖父、祖母、いとこ、毎朝乗るバスの運転手さん、先生

A

《ワーク 11》

あなたは親になりたいですか？なりたくないですか？親になるとは、どういうことでしょうか。

<p>① 親になりたい理由 or なりたくない理由は？</p> <p>自分も、親や周りの人から影響を受けてこいまで大きくなったので、将来は自分も影響を与えられる人になりたいから。</p>	<p>② 親になるために必要な資質とはなんですか？</p> <p>周りの人を尊重する心。自分以外の人のために行動ができること。思いやりの気持。</p>
<p>③ 子育てのメリットとはなんですか？</p> <p>子どもを育てることが、家庭全体が明るくなる。子どもを通して、親にも友人ができる。</p>	<p>④ 子育ては、どんな犠牲や我慢が必要でしょうか？</p> <p>自分の趣味ややりたいことに使う時間を犠牲にする必要がある。つかれたら子どもを我慢する必要がある。</p>

B

《ワーク 12》

子どもを生み育てることには、どのような個人的な意味や社会的な意味があるでしょうか。

個人的な意味

子孫を残し、家族の絆を強める。

社会的な意味

文化を継承、義務として、未来を担う社会の構成員としての子どもを育てる。

C

自己評価

- ・遅刻をしなかった。 (A) B C D
- ・忘れ物がなかった。 (A) B C D
- ・私語をせず集中していた。 (A) B C D
- ・意欲的に取り組めた。 (A) B C D
- ・プリントを完璧に記入した。 (A) B C D
- ・教員から注意をされなかった。 (A) B C D

気づき・感想欄

私は将来親になるために、周りのことをしっかり考え、よい視察を行って行かなくてはならないことを思い出した。

生徒が記入したワークシート テーマ「親の役割」

IV 開発教材を用いた授業の結果について

授業は前半は一斉指導，授業後半で個別にワークシートに取り組みさせる展開にした。そして，授業の最後に，その時間の自己評価をさせた。ワークシートに取り組む際は，何について考える題材なのかという視点を説明し，自分の考えを明確に表現するよう促した。

表 子育てのワークシートで考えさせた視点

A	<p>「成長を支える周りの人たちの支援がなければ，子どもは健やかに育つことができない。子どもは，家族や身近な人々からの世話を受け，たくさんの愛情や人間的ななかかわりのなかで育てられていく」ということを考えさせるワークである。子どもから大人へと育つ途上にいる高校生である自分を例に，自分自身の発達を振り返りながら考えるよう促した。</p> <p>この生徒は，家族や親戚に加え，学校生活で出会う友達や先生，地域の人々の存在もあげている。</p>
B	<p>「子どもを生み育てるには，愛情のほかに，時間・エネルギー・忍耐が必要であり，経済的負担がかかる。それらの要素を継続的に子どもに注ぐためには，精神的・社会的成熟が必要になる」ということを考えさせるワークである。自分自身が子どもを育む側になるとしたらという視点で考えるよう促した。</p> <p>この生徒は，将来親になりたいとした上で，周りからの影響を受けて育つことや，周りを尊重し，周りのために行動すること，犠牲や我慢が必要であることをあげている。</p>
C	<p>「自分の命を伝え，親になるということは，次の世代の担い手を育て，未来の社会を育てることを意味している。また，親になることを選択しなかったとしても，社会の中で，大人の一人として子どもにかかわることは必要である」ということを考えさせるワークである。子どもを育てるということには，親にとっての意義に加え，社会にとってどのような意義があるのかを考えるよう促した。</p> <p>この生徒は，子孫を残し家族間の繋がりを深めると同時に，文化の伝承や発展，未来の社会を構成する存在を育てるということをあげている。</p>

最後に，授業のまとめとして，多くの人が自分の発達を支えてきてくれたように，自分自身も子どもを育む社会の一員となることを目標として，これからの学習に臨むよう伝えた。

このようなワーク形式の学習に関して，生徒はおおむね肯定的に受け止めている。記入に時間を要する生徒も見られるが，記入のヒントや例を示すことにより，記入を促している。今年度は，深い思考や表現につながる課題づくりを行い，実際に試行しながらワークシートを作成してきた。（※巻末に作成したワークシートの一部を示す。）

次年度は，より綿密な授業を展開し，それを生徒がどう受け止めたかを検証していこうと考えている。